

第3回小児がんセンター市民公開講座 実施結果

1. 日時：平成30年3月3日(土) 13:30～15:30(開場13:00～)
2. 場所：TKPガーデンシティ横浜6階 ホール6B
3. 対象：一般市民 他
4. 内容： 思春期・若年成人(AYA)世代に対する小児がん治療と課題について
昭和大学藤が丘病院 小児・AYA世代がんセンター 小児科医師 山本将平氏
思春期・若年成人(AYA)世代のがん患者さんの抱える問題と支援の実際について
国立がん研究センター 希少がんセンター 看護師 加藤陽子氏
神奈川県立こども医療センターにおける思春期・若年成人(AYA)世代小児がん患者への
支援と課題
神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室 看護師 竹之内直子氏

実施結果

参加者：48名

一般参加者 15名

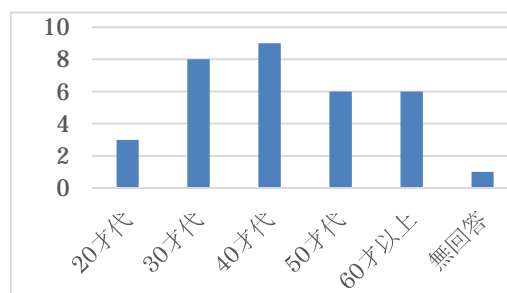
医療関係者 33名(自施設18名、その他の医療関連機関8名、行政5名、学校関係2名)

アンケート結果 回答者：33名(68.8%)

1. 背景

1) 年齢

20才代：3名, 30才代：8名,
40才代：9名, 50才代：6名,
60才以上：6名、無回答1名



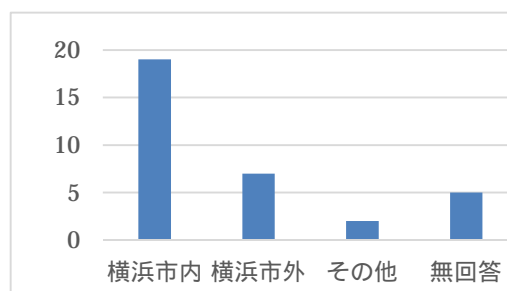
2) 居住場所

横浜市内：19名

横浜市内外：7名, 藤沢(1), 川崎(2), 大和(1))
府中市(1), 千葉(1),

その他：2名

無回答：5名



3) 職業

看護師(10), 主婦(2), 公務員(2), 保健師(2), 看護教員(1), 会社員(1),
行政書士(1), 福祉事務所(1), 無回答(13)

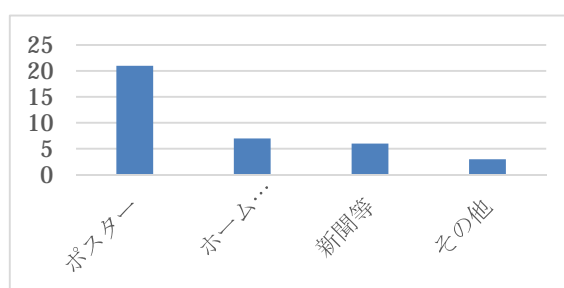
2. 講座を知ったきっかけ (複数回答あり)

1) ポスター：21名

2) ホームページ：7名

3) 新聞など：6名

4) その他：3名(Facebook等)



3. 参加理由 (複数回答あり)

- 1) 支援者として関わっている: 16名 医療者、家族会等支援者等
- 2) 小児がんに関心がある: 11名
- 3) 身内に小児がん経験者がいる: 8名
- 4) その他: 1名 研修企画を考えているため

4. 講座内容について

- 1) 大変よかった: 20名 よかった: 13名 どちらともいえない: 0名 わるかった: 0名

2) 自由意見

- ・AYA世代という言葉が最近知った。血液内科移植病棟の看護師として働いていて、10代20代の患者と関わる事が多いにも関わらず、多くの看護師がAYA世代について理解できていない現状にある。今回の講座で知った事を病棟に還元できればと思う。
- ・AYA世代ならではの悩みもたくさんあると思うが、まずは医療者が信頼関係を構築し、真のニーズを知る事、適切な資源につなぐことが大切だと思った。
- ・AYA世代の方々からの声を取り入れながら、支援体制をつくられている点は素晴らしいと思った。「相談先がない」と孤立することのないよう、一緒に考えられる支援を行っていきたいと思った。
- ・AYA世代のがん患者さんの課題についてよくわかりました。
- ・同じテーマに関して、様々な視点からお話を聞いてよかった。保健所で働いているので、実際どんな支援ができるのか考えていきたいと思う。ありがとうございました。
- ・当事者のみなさんにとって、心強く感じられる内容で良かった。
- ・大変勉強になりました。
- ・加藤先生の具体的なお話をお聞きして勉強になった。
- ・文献に書かれている内容から、さらに今行われている現状を知ることができて、とても勉強になった。
- ・是非、高校の学習支援の体制づくりをしていただきたい。竹之内さんも話されたように、社会がもっとこういう状況を認識していく必要があれば...と思った。
- ・小児がんについてももっと勉強し、サポーターとなれるよう頑張りたいと思う。
- ・支援したいが、窓口が分からない。どこに問合せすれば良いのやら。
- ・もっと早くこのような相談窓口を知っていたら良かったと思う。
- ・大変充実した内容で、ありがとうございました。参加者をもっと多くして、沢山の人のために聞いて頂きたいと思った。宣伝をもっとして頂いた方が良かったと思った。
- ・今日はAYA世代の問題(Life)に対しての取り組みがメインテーマなんですよね? life stage における支援についてはよく学べたが、身体的な事は足りなく思う。life stage における支援が主なら、それをもっとチラシに書いて欲しかった。

5. 今後とりあげてほしい内容

- ・長期フォローアップについて、具体的に支援されていることについて(事例など)お話を伺うことができればと思う。
- ・小児がん患者の長期フォローアップ。
- ・市民にもわかる、事例検討のようなもの。
- ・家族支援の実際(きょうだい支援、こどもへのグリーフケア、学校との協働の実際)
- ・地域での取り組み(訪看ステーション、往診、学校)
- ・小児がん患者さんの緩和ケアの実際(具体的な例を話してほしい)他施設等。

- ・小児がんの治療について。
- ・小児がん治療の現状！(生存率、将来の希望等)
- ・妊孕性温存に関する支援、関わり方。
- ・治療を受ける患者の精神的な支援(モチベーションの向上、遊び、気分転換、恐怖への介入等)。
- ・後遺症や、就学・就労について。
- ・病院以外で総合的な相談(就労や就学)ができるところがないと、困っても相談できず、ひきこもることになりかねない。その部分の支援について知りたい。

6 . その他気付いた点など

- ・目先の事にどうしても焦点が当たりやすいが、小児の場合、今後の将来(発達課題など)を見据えた指導教育、看護をしていける医療者に会えるかどうかで、将来が変わってしまうとしたら、それは重大な事だと思った。
- ・AYA 世代のがん患者を取り巻く環境が少しずつでも良いものになっているなぁと実感できた。医療そのものの向上だけでなく、多くの面で支援や応援できる場が増えていくことを願っている。
- ・AYA 世代という言葉が今日初めて聞いた。自分の無知さを痛感した。もっと勉強したいと思う。